

(国語科)

読書へひろがる国語科の授業 ―教科書の読みを読書に結びつける指導法の工夫―

大阪市立鯉江東小学校 片山幸子・太田安紀

1 研究主題設定の理由

本校での一昨年度までの3年間に行ってきた道徳の研究では、交流の活性化について課題が残った。また、平成25年度の学校評価アンケートでは、読書量が少ないという実態があった。これらを充実させる必要があると考え、昨年度から国語科を研究教科にして研究を進めることにした。

読書活動の意義について、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年施行)では、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。」と明記されている。子どもたちに読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣を身に付けさせるため、また、読解力や言葉の力を育成するためにも読書活動を推進していくことが大切である。そこで、読書に関するアンケートをもとに児童の実態を把握し、読書の量や質を高めるため、読書環境を整えるようにしてきた。また、国語科で培われた力を使って読書に親しませたり、読書活動で言葉の力を養ったりもしてきた。しかし、交流の活性化については、課題が見られた。それゆえ、今年度も前述した成果と課題を踏まえ、教科書の読みを大切にそれを読書へとひろげていける指導法を工夫していくため、本主題を設定した。

2 研究の視点・内容

○ 読書につながることを見据えた指導計画の作成

一単元の中に、読書を意識した言語活動を取り入れ、関連図書としてはどのようなものがよいのか、また、どの時期にどのような形で入れると効果的なのか、単元全体の中でどのように読ませていくとよいのかなどの指導の工夫を図る。

○ ひとりまなびの活用

単元の初めにひとりまなびを行う。ひとりまなびというのは、一人で読んで教材に向き合う時間を設けることであり、一人一人の読みをつかむという意味合いもある。中学年以上では、少人数学習を活用し、よりきめ細かい指導を目指す。物語文や説明文という文種によって内容を変えているが、基本的な内容(音読・感想・意味調べ・場面分け)は共通にしている。文種は同じでもその教材文に合わせて追加、変更してその単元にふさわしいワークシート作りを行う。また、低学年でも同様に発達段階に応じたワークシートを作る。読書においては全文読みが大切だが、ひとりまなびに取り組むことにより、長い文章にも読み慣れるようになる。

○ 教材分析と構造表の作成

教材文を一枚のプリントに表したり、気付いたことを書き込んでいったりなどして教材研究を深める。また、教材文に応じた構造表作りも行う。

○ 交流の活性化

交流にふさわしい場面の設定や、交流の仕方を工夫することにより、自分の考えを持つことができ、多様な読みにつながるようにする。

○ 読書の推進

- ・実態把握・・・視写の速度、読書についてのアンケート
- ・読書活動年間指導計画表の作成
- ・教師による読み聞かせ
- ・読書に関する実技研修会
ビブリオバトル・読書へのアニメーション・ブックトーク・パネルシアター
- ・図書館の整備・読書につながる環境づくり
- ・図書委員会の活動

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 読書につながることを見据えた指導計画の作成

第一次でブックトークや読み聞かせをし、第三次での言語活動を伝えることでめあてを明確にし、その活動に応じた並行読書をしながら、第二次で教材文を読み取っていくという一連の指導過程を確立することができた。尚、本年度は次のような実践を行った。

学年	教材名	言語活動
1年生	サラダでげんき	登場人物に手紙を書く
2年生	ふろしきはどんなぬの	まほうのどうぐブック作り
3年生	はりねずみと金貨	紹介カード作り
4年生	ごんぎつね	リーフレット作り
5年生	注文の多い料理店	ビブリオバトル
6年生	風切るつばさ	読書会

② ひとりまなびの活用

どの学年も教材に合ったワークシートを作ることができた。また、ひとりまなびを行うことにより、ここで読み取ったことを第二次の学習でも活かすことができた。

③ 教材分析と構造表の作成

教材分析をもとに構造表を作成することができた。どのような内容を構造表として表すとよいかを考え、一目でわかるようなものを作ること自体が教材研究にもつながった。

④ 交流の活発化について

根拠に基づいて自分の考えを書くことや、話し合いの形態を工夫することにより、交流の活発化につながった。

(2) 今後の課題

- ・読書につながることを見据えた指導計画の作成に関しては、今回の指導を活かし、他の教材についても読書へとつながる指導計画を立てて実践していくようにする。
- ・より教材文に合ったひとりまなびのワークシート作りに努めるようにする。
- ・今後もしっかりした教材分析と、指導内容を踏まえたよりよい構造表作りをしていくようにする。
- ・交流の活発化については、隣同士や小グループで話し合った後の全体の交流の場での話し合いが活発になるように工夫する。